

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：42705

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12508

研究課題名（和文）戦前における日本文化の発信と国際音楽文化交流 - 近衛秀麿を中心に

研究課題名（英文）Hidemaro Konoye's Role in Dissemination of Japanese Culture and International Music Exchange in Prewar Japan

研究代表者

三枝 まり (SAEGUSA, MARI)

小田原短期大学・保育学科・准教授

研究者番号：10584211

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：国際的な評価を得た最初期の日本人音楽家の一人である近衛秀麿（1898-1973）の欧米における音楽活動を明らかにし、近衛秀麿研究の礎とするため以下の各項目を実施した。海外に残る近衛秀麿に関連する資料の調査と収集、資料の保全とデジタル化の推進、日英両語による作曲・編曲資料の目録データベースの作成と公開、資料の展示・レクチャーコンサート・シンポジウム等の企画、演奏用貸し出し楽譜の制作、手形帖の出版、近衛秀麿編曲《君が代》の出版。これらを実施した結果、近衛の欧米滞在は音楽家近衛のキャリアにおいて重要な意味を持ち、その経験がその後の彼の指揮活動に大いに資することになったことが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近衛秀麿は近代日本音楽史において重要な役割を果たしたが、海外の活動についての研究は相対的に立ち後れていた。本研究は、特にドイツ連邦公文書館に所蔵される1300点を越える近衛関連資料に焦点を当てたもので、近衛自身の活動の詳細のみならず、戦前・戦中期の日本とドイツの文化交流の実態や日本理解の様相の一端を明らかにした点は学術的・社会的に意義がある。また、ドイツのマンハイム歌劇場の楽譜書庫で、近衛秀麿編曲によるシベリウス作曲《交響曲第2番》の全パート譜とスコアを見つかることができたことは、海外に残る日本人資料の収集という点で、大きな成果であった。今後、演奏用貸し出し楽譜を作成して、一般に提供したい。

研究成果の概要（英文）：The research is aimed to unveil the musical activities and international exchanges of Hidemaro Konoye (1898-1973), one of the first Japanese musicians to gain international acclaim, and to lay the groundwork for Konoye studies. To achieve this goal, I undertook the following tasks: 1) surveying and collecting overseas materials related to Hidemaro Konoye; 2) preserving and digitizing the materials; 3) releasing a catalog database of his compositions and arrangements in Japanese and English; 4) organizing exhibitions, lecture concerts, symposiums, etc.; 5) producing rental scores for performance; 6) publishing his arrangement of "Kimigayo: Japanese national anthem". These activities revealed that Konoye's stay in Europe was crucial for his musical career, and that his experience greatly influenced his later conducting activities.

研究分野：音楽学

キーワード：西洋音楽受容 オケストラ 近代日本 国際文化交流 近代日本音楽史 指揮者

## 1. 研究開始当初の背景

近衛秀麿は、国際的な評価を得た最初期の日本人音楽家の一人であり、戦前よりベルリン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめ、BBC 交響楽団やフィラデルフィア管弦楽団など海外のオーケストラを指揮したほか、自ら管弦楽用に編曲した雅楽《越天楽》や日本古謡《さくら》などの演奏を通じて、海外における日本の音楽文化の紹介にも努めた。申請者は、自らが研究代表者を務めた科学研究費補助金若手研究(B)「近衛秀麿研究 作品・資料目録データベース作成と資料の分析を通して」(平成26~28年度、研究課題番号26770043)および藤田由之、榎崎洋子、三枝まり 共同研究「近衛秀麿のオーケストラ音楽に関する理念の解明と、その成果の出版」(2013年度、ミュージック・ファンデーション:音楽に関する研究への助成)を通じて、2000年に及び一次資料が保管されている近衛音楽研究所の所蔵調査を初めて行い、近衛秀麿が日本の西洋音楽受容において果たした役割を解明しようと努めてきた。その結果、近衛秀麿の日本国内における音楽活動の全体像はかなり明らかになってきた。一方、近衛の音楽活動の全体像に目をむけるならば、彼の延べ10年以上に及び戦前の海外における音楽活動についての研究は、長木誠司の「ディスク遊歩人(24)ドイツ赤十字の下で-戦中期の近衛秀麿」(『レコード芸術』59巻12号、2010年)を除き、ほとんど行われていない。そのような中で、大野芳『近衛秀麿~日本のオーケストラをつくった男』(講談社、2006年)や菅野冬樹『戦火のマエストロ』(NHK出版、2015年)は近衛秀麿の生涯を捉えたノンフィクション作品であるが、彼の音楽的業績は明らかにされることはなかった。以上のように、近衛秀麿の欧米での音楽活動について、これまで総括的で体系的な調査に基づいた纏まった研究は十分になされていない状況であった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、海外に点在する近衛秀麿関連資料の調査と、近衛音楽研究所所蔵資料の整備を通して、近代日本音楽史や日本の文化交流において近衛秀麿が果たした役割を解明するとともに、日英両語で資料アーカイブを作成して、研究成果を世界へ向けて発信することである。日本人音楽家として戦前に国際的な活動を長期間に亘って行った人物は近衛秀麿を以てほかに例を見ない。近衛の音楽活動を通して、東西の音楽文化交流はどのように行われたのか、「欧米から見た日本」像はどのようなものであったのかについて詳細に明らかにすることを目指す。

## 3. 研究の方法

### (1) 海外に残る近衛秀麿に関連する資料の調査

海外に残る新聞雑誌記事の収集、海外文献の調査を行い、国内に残された記録との照合を行う。本研究では、特にドイツ連邦公文書館に所蔵された独日協会やドイツ赤十字社主催演奏会関係の1300点を越える資料の調査に注力し、日付、地名、数量、言語、手紙・電報などの種別、筆記具、内容などの情報を記録する。

### (2) 近衛音楽研究所所蔵資料の整備と公開

#### 資料の保全とデジタル化の推進

近衛音楽研究所所蔵資料には、火事や経年劣化で損傷が激しいものなどが含まれる。資料の展示や利用には資料の補修や複製物、デジタル・データの作成が不可欠である。資料の保全とデジタル化を進める。

#### 日英両語による近衛関連資料アーカイブの作成と公開

近衛秀麿の作曲・編曲資料を収録した目録データベースを日英両語で作成し、国内外の研究者が資料情報を共有できる環境を整備し、Web上で公開する。

#### 資料の展示・レクチャーコンサート・シンポジウムの企画

生誕120年にあたる2018年を機に近衛音楽研究所所蔵の近衛秀麿関連資料を一般公開し、日本の近代音楽史における近衛秀麿の功績の広い理解に資する。

#### 演奏用貸し出し楽譜の制作

いわゆる「近衛版」と呼ばれる編曲作品と、作曲作品の貸し出し用スコアとパート譜を作成し、広く社会に供する。

#### 手形帖の出版

近衛秀麿と交流のあったヴィルヘルム・フルトヴェングラーやレオポルド・ストコフスキー等の指揮者やイーゴリ・ストラヴィンスキーやヴィルヘルム・ケンプら音楽家との交流記録について、解題を付してまとめ、これらの資料を出版して、近衛の音楽活動の足跡を広く知らしめる。

## 4. 研究成果

### (1) 海外に残る近衛秀麿に関連する資料の調査

マンハイム歌劇場(Nationaltheater Mannheim)の楽譜庫から近衛秀麿が書き込みをしたシベリウス交響曲2番(近衛秀麿編曲)の全パートを発見した。元々この楽譜ブライトコップフ社から特別に近衛秀麿に寄付されたものであり、第三者に売られたり貸与されたりしてはならない、と書かれている。原曲には存在しないコントラファゴット、イングリッシュホルン、3番フルー

トのために書かれた楽譜も見つかったことは特筆すべきである。マンハイム歌劇場の担当者との交渉ののち、スコアとともに日本に持ち帰ることができた。今後、演奏用貸し出し楽譜を作成して、一般に提供したい。

ドイツ連邦公文書館に所蔵された近衛秀麿関係ファイル 4 冊を調査した。詳細は以下のとおりである。1 冊目：「独日協会：ドイツ帝国における日本に関する講演と展示会（新聞の切り抜き）1936-1944」2 冊目：「独日協会：ドイツにおける日本人指揮者近衛秀麿による客演コンサート（第 2 巻、第 3 巻はイベントの日付別に整理）第 1 巻：全般；様々な都市でのコンサートの準備：フィンランドでのゲストコンサート（新聞批評）1941/近衛の指揮で軍隊支援のための室内オーケストラをまとめるためのやりとり 1944/（1940 年頃）1941-1944」3 冊目：「独日協会：ドイツにおける日本人指揮者近衛秀麿による客演コンサート（第 2 巻、第 3 巻はイベントの日付別に整理）第 2 巻：客演公演の準備と上演について：ハンプルク、ザールブリュッケン、メッツ、ヴィースバーデン、ダンツィヒ、トルン、ポーゼン、リッツマンシュタット、ケーニヒスベルク、ピーレフェルト、レックリングハウゼン、レーゲンスブルク/（1940 年頃）1941-1944」4 冊目：「独日協会：ドイツにおける日本人指揮者近衛秀麿による客演コンサート（第 2 巻、第 3 巻はイベントの日付別に整理）第 3 巻：客演公演の準備と上演について：ソポト、ミュンスター、トルン、カトヴィッツ、ライヒェンベルク、ブリュッセル、シュトラスブルク、ルートヴィヒスハーフェン、ハレ（1940 年頃）1941-1944/ さらにベルリン（Hasse & Wrede 社での工場コンサート）」内容は手紙 494 点、新聞切り抜き 331 点、タイプ文書 220 点、手書きメモ 151 点、タイプメモ 54 点、電報 35 点、印刷物 24 点、写真 5 点、書類 3 点、封筒 2 点、白紙の見出し 1 点の計 1320 点である。内容を分析し、戸ノ下達也編著『音楽文化の日本近現代史』（仮）で発表予定である。

その他、オーストリア国立図書館、ユダヤ人歴史センター、ケベック国立図書館・文書館、ニュージーランド国立図書館における演奏会評などの資料収集、アメリカの邦人向け新聞記事の収集、米国国立公文書館所蔵資料調査、Leopold Stokowski Concerts 1933-1949 の調査、ゲッベルスの日記、その他海外文献の調査を行い、近衛秀麿がソ連政府のスパイ活動の対象になっていたことや、皇紀 2600 年奉祝曲として《シンフォニア・ダ・レクイエム》を作曲したブリテンとの関係、ハリウッドで映画製作を企画していたことなどを確認した。

## （2）近衛音楽研究所所蔵資料の整備と公開

### 資料の保全とデジタル化の推進

近衛秀麿指揮ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会ポスター（1936 年 11 月 27 日）、近衛秀麿指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会ポスター（1933 年 10 月 3 日）などポスター 5 点を修復し、アーカイバル・クリア・フォルダーに保管し、画像データ化した。また、近衛秀麿の四男に当たる長井雅楽氏から近衛音楽研究所が寄贈を受けたカセットテープ 2 ダース分の私的録音をデジタル化した。晩年の近衛秀麿の演奏法やレパートリーが分かる貴重な録音で、モーツァルトやベートーヴェンのほかストラヴィンスキーのバレエ組曲《火の鳥》（1945 年版）やルロイ・アンダーソン《シンコペーテッド・クロック》の録音に加え、リハーサルやインタビューの録音などが含まれている。これらの一部を生誕 120 周年記念企画の際に一般公開した。上記に加え、劣化したオープンテープ 5 点に記録された近衛秀麿の録音物をデジタル化した。その他、《愛媛県民の歌》、《延岡高等学校校歌》などの楽譜資料のコピーを新たに入手し、デジタル画像化した。《延岡高等学校校歌》の調査の過程では、近衛秀麿を取りあげた連載が夕刊デイリー新聞社で企画された。

### 日英両語による近衛関連資料アーカイブスの作成と公開

日本語と英語による作曲・編曲資料目録を作成し、近衛音楽研究所ウェブサイト上にて公開。URL は下記の通り。

<https://www.hidemarokonoye.com/research>（日本語）

<https://konoyefoundationof.wixsite.com/en-website/research>（英語）

### 資料の展示・レクチャーコンサート・シンポジウムの企画

2018 年 7 月 28 日にシンポジウム・トークコンサート・資料展示「生誕 120 周年記念 近衛秀麿 再発見」を明治学院大学で開催した。シンポジウムには、研究代表者に加えて、岩野裕一（編集者・音楽ジャーナリスト）、近衛一（近衛音楽研究所所長）、檜崎洋子（武蔵野音楽大学教授）、西原稔（桐朋学園大学教授）、藤田由之（指揮者・音楽評論家）、水谷川忠俊（近衛音楽研究所）が参加し、岡部真一郎（明治学院大学教授）をモデレーターとして録音や映像を交えて考察、クロストークを行った。続いて、水谷川優子（チェロ）、マーク・ゴトーニ（ヴァイオリン、ベルリン芸術大学教授）、黒田亜紀（ピアノ）によるトークコンサートを行い、近衛秀麿の音楽を室内楽で再現した。さらに、近衛音楽研究所所蔵の自筆譜を含む資料や記録の一部を、初めて一般公開した。また、シンポジウムに先立ち、7 月 23 日から 7 月 28 日にパネル展示を行い、近衛音楽研究所のほか、明治学院大学図書館付属遠山一行記念日本近代音楽館、NHK 交響楽団所蔵の資料を活用し、近衛秀麿の音楽家としての足跡を辿った。

#### 演奏用貸し出し楽譜の制作

近衛秀麿が編曲したベートーヴェン作曲交響曲第3番「英雄」(近衛秀麿編曲)、シューベルト:大交響曲八長調～弦楽五重奏曲八長調 op.163 (D.956)の管弦楽版(近衛秀麿編曲)、ショパン作曲ピアノ協奏曲第1番(近衛秀麿編曲)について貸し出し用スコアを作成した。特に、ベートーヴェン作曲交響曲第3番「英雄」(近衛秀麿編曲)は、日本センチュリー交響楽団により演奏され、NHK大阪放送局により収録された。ショパン作曲ピアノ協奏曲第1番(近衛秀麿編曲)についても、2023年に在京オーケストラにより演奏予定である。

一方、当初貸し出し楽譜として作成予定だった近衛秀麿編曲《君が代》については、『国歌 君が代 管絃楽譜 近衛秀麿編曲』(2021)としてヤマハミュージックエンタテインメントホールディングスから出版することができた。

#### 手形帖の出版

近衛秀麿が国内外の音楽家と交流した際にもらった手形を収録した手形帖を、日本語と英語の解説を付して出版。アルテスパブリッシングより2023年に発売予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 三枝まり	4. 巻 -
2. 論文標題 近衛秀麿作曲活動と延岡高校自筆草稿譜の紹介	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 夕刊デイリー（2021年6月1日付）	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三枝まり	4. 巻 -
2. 論文標題 番組名から見る戦前期の洋楽放送 JOAKを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上野学園創立115周年記念論文集	6. 最初と最後の頁 65-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 三枝まり、内田順子	4. 巻 51
2. 論文標題 コロナ禍における保育者養成校での「表現」授業展開の考察 オベレッタ「かえるののどじまん」を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小田原短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 349-356
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 根来章子、三枝まり、井芹まい、加藤松次、久保寺賀子、中村昭彦	4. 巻 49
2. 論文標題 幼児教育における総合的な表現活動の可能性の追究 NHK教育『できるかな』に焦点を当てて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小田原短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 321-344
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三枝まり	4. 巻 34
2. 論文標題 平成30年度研究助成「昭和前期におけるラジオ放送と『日本文化の形成』 音楽番組を中心に」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一般社団法人カワイサウンド技術・音楽振興財団第34号	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三枝まり	4. 巻 3344
2. 論文標題 書評 菅野冬樹著『近衛秀麿 亡命オーケストラの真実』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 岩野裕一、近衛一、三枝まり、榎崎洋子、西原稔、藤田由之、水谷川忠俊
2. 発表標題 生誕120周年記念 近衛秀麿 再発見
3. 学会等名 日本音楽学会東日本支部特別研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 近衛一、藤田由之、三枝まり、近衛音楽研究所	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス	5. 総ページ数 16
3. 書名 国歌 君が代 管絃楽譜 近衛秀麿編曲	

1. 著者名 戸ノ下達也, 洋楽文化史研究会編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 17
3. 書名 展開する厚生音楽 : 戦争・職場・レクリエーション	

〔産業財産権〕

〔その他〕

近衛秀麿研究 <a href="https://www.hidemarokonoye.com/research">https://www.hidemarokonoye.com/research</a> (日本語) <a href="https://konoyefoundationof.wixsite.com/en-website/research">https://konoyefoundationof.wixsite.com/en-website/research</a> (英語)
---

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------